

2020.10.28(水) 出石地域

会場:出石多目的ホール

地域住民対象

小中学校のあり方

意見交換会

豊岡市教育委員会



次第

1. あいさつ
2. 小中学校のあり方についての検討
3. 児童生徒数の推移と複式学級
4. 小中学校適正規模・適正配置の考え方と再編の枠組(案)
5. 保護者の意見(保護者向け意見交換会から)
6. 意見交換
7. アンケート

1. あいさつ

1.あいさつ

豊岡の教育のめざす姿

コミュニケーション教育

小学校 6年
「転入生がやってきた」



中学校 1年
「ジェスチャーで場面作り」



2. 小中学校のあり方についての検討

なぜ検討が必要なの？

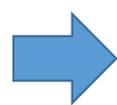
少子化が進み、同級生が極端に少ない学年や複式学級が増えています

	小規模校のメリット	小規模校のデメリット
学習面	<ul style="list-style-type: none">● 児童・生徒の一人ひとりに目がゆきとどきやすく、きめ細かな対応がしやすい。● 学校行事や部活動等で、児童・生徒一人ひとりに個別の活動機会が与えられやすい。	<ul style="list-style-type: none">■ 集団の中で、多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい。■ 運動会などの学校行事や音楽活動等の集団活動に制約が生じやすい。■ 部活動の部員の確保が難しい。<ul style="list-style-type: none">➢ 部活動の数が減り、選択肢が少ない。➢ 試合に出られない。
生活面	<ul style="list-style-type: none">● 児童・生徒相互の人間関係が深まりやすい。● 異学年間の縦の交流が生まれやすい。	<ul style="list-style-type: none">■ クラス替えが困難なことなどから、人間関係や相互の評価等が固定化しやすい。■ 集団内の男女比に極端な偏りが生じる可能性がある。

2.小中学校のあり方についての検討

なぜ検討が必要なの？

	小規模校のメリット	小規模校のデメリット
【学校運営】	<ul style="list-style-type: none">● 全教職員間の意思疎通が図りやすく、連携が密になりやすい。● 学校が一体となって活動しやすい。● 施設・設備の利用時間等の調整が行いやすい。	<ul style="list-style-type: none">■ 教員の配置人数は学級数で決まるため…<ul style="list-style-type: none">➢ 一人当たりの教員の負担が大きくなる➢ 中学校の各教科の免許を持つ教員を配置しにくい（専門的な学習にも影響）■ 複式学級で授業を進めるためには特別な指導技術が必要。■ 運動会や文化祭等の運営に課題が生じる。
【その他】	<ul style="list-style-type: none">● 保護者や地域社会との連携が図りやすい。	<ul style="list-style-type: none">■ PTA活動等、保護者一人当たりの負担が大きくなりやすい。



小規模校の良さもあるが、学校規模が小さくなりすぎると課題の方が大きくなる

なぜ検討が必要なの？

保護者の不安

- ◆進学後や社会に出た時など、大勢の中で馴染めるか不安。
- ◆同級生がいない。
- ◆複式学級が不安。

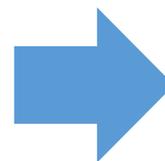
⇒ **他の学校区へ転居する事例も**

昨年の教育懇談会では、「地区では統合の話を出しにくい。市主導で方針を示してもらえないか。」という意見も。

2.小中学校のあり方についての検討

市教育委員会では、どのような検討をしているの？

「豊岡市立小中学校適正規模
・適正配置審議会」を設置して
審議中



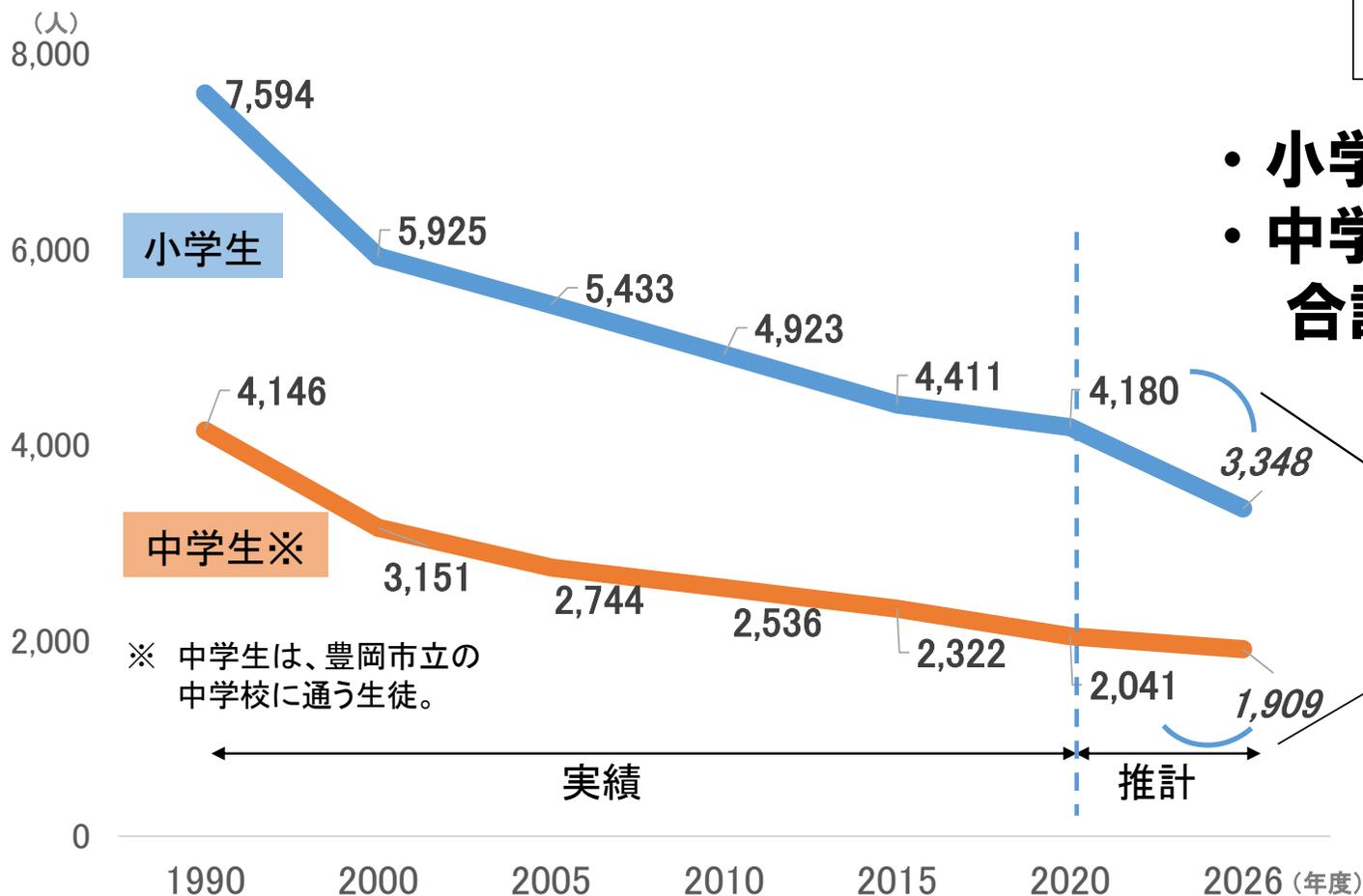
2021年2月
答申予定

小中学校の再編を視野にいた検討

3. 児童生徒数の推移と複式学級

3. 児童生徒数の推移と複式学級

児童・生徒数の推移



※ 中学生は、豊岡市立の中学校に通う生徒。

1990年⇒2020年

・小学生 3,414人 減
 ・中学生 2,105人 減
 合計 5,519人 減 } 約 1/2

さらに
 2020年⇒2026年
 6年間だけで
 【小+中】
 964人 減 (見込み)

兵庫県教育委員会 統計資料(各年5月1日現在)
豊岡市住民基本台帳(2020年4月8日現在) より

3. 児童生徒数の推移と複式学級

○公立学校の学級編制(複式学級)基準 (兵庫県の基準)

項 目	小 学 校	
単式学級	35人 (第1学年)	40人 (第2～6学年) ※ただし、第2～4学年は弾力的取り扱いにより 35人学級編成
複式学級	14人 ※2つの学年で (第1学年を含む場合は、8人)	

3. 児童生徒数の推移と複式学級

出石地域の各学校別学年人数と 今後の見込み

兵庫県教育委員会 統計資料(2020年5月1日現在)

豊岡市住民基本台帳(2020年4月8日現在)

3. 児童生徒数の推移と複式学級

出石地域

出石地域の各学校別学年人数と今後の見込み

2020年度

単位：人

小学校名	1年	2年	3年	4年	5年	6年	児童数 合計	複式 学級数	クラス数	備考
弘道	32	37	42	42	33	41	227		10	
福住	17	16	15	19	17	24	108		6	
寺坂	5	6	3	2	6	3	25	1	5	3-4複式、5-6複式解消
小坂	11	21	19	12	15	12	90		6	
小野	10	11	9	8	10	10	58		6	
合計	75	91	88	83	81	90	508			

3. 児童生徒数の推移と複式学級

出石地域

出石地域の各学校別学年人数と今後の見込み

6年後(2026年度)

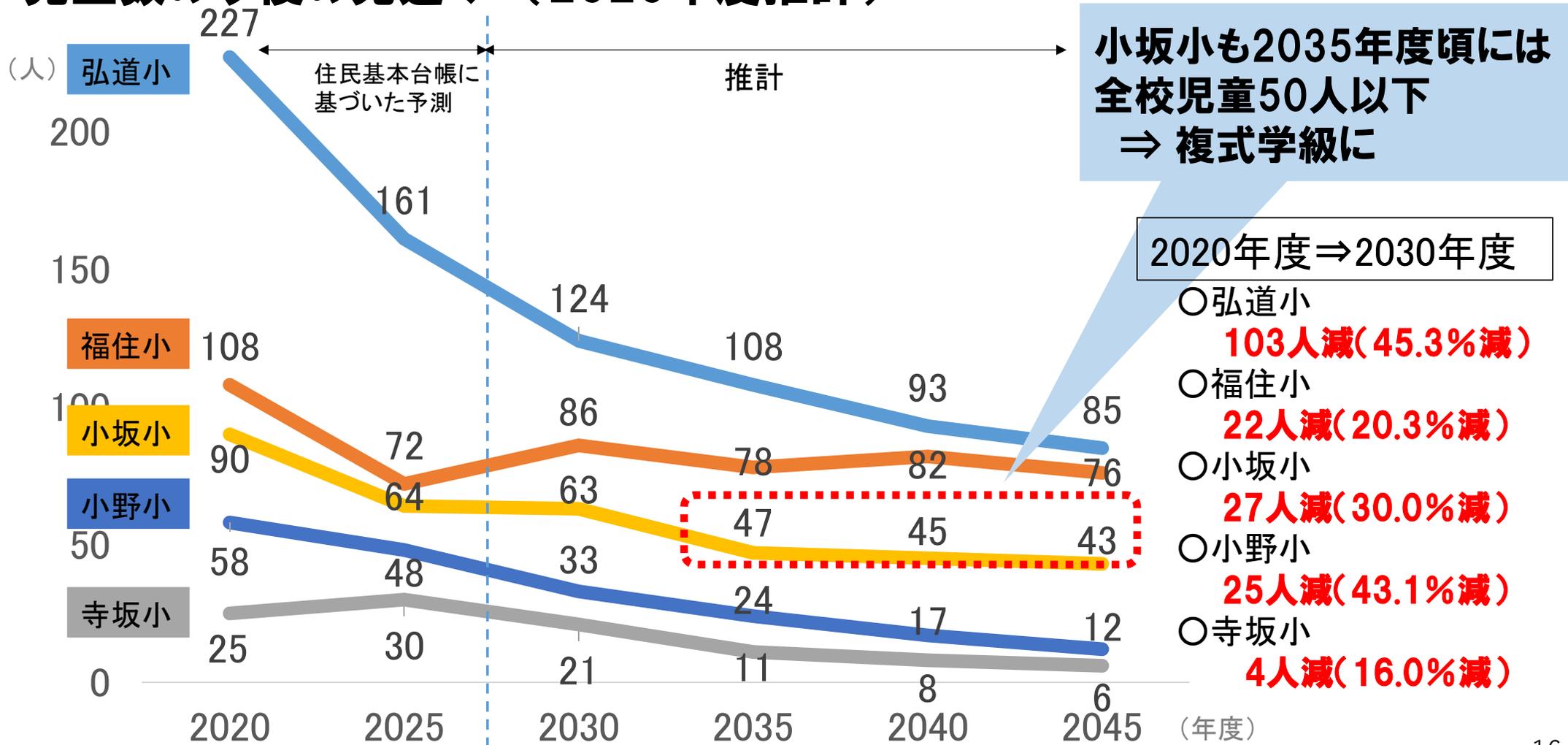
単位:人

小学校名	1年	2年	3年	4年	5年	6年	児童数 合計	複式 学級数	クラス数	備考
弘道	19	17	31	22	32	27	148		6	
福住	13	14	9	14	12	6	68		6	
寺坂	2	7	2	1	9	6	27	2	4	2-3,4-5複式
小坂	8	10	11	7	12	13	61		6	
小野	7	6	9	6	7	10	45	1	5	4-5複式
合計	49	54	62	50	72	62	349			

3. 児童生徒数の推移と複式学級

出石地域

児童数の今後の見込み（2020年度推計）



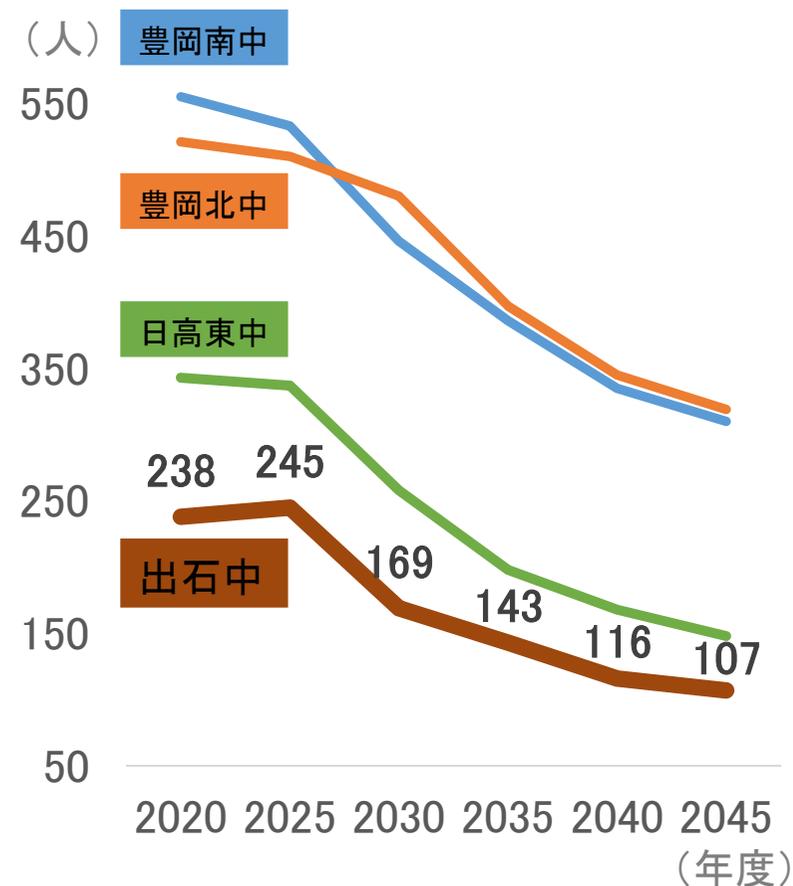
3. 児童生徒数の推移と複式学級

出石地域

中学校別生徒数の今後の見込み（2020年度基準）

学校名	中1	中2	中3	生徒数 合計	学級数
出石中	77	92	69	238	7

豊岡南中	197	182	176	555	15
豊岡北中	164	162	195	521	13
港中	19	16	27	62	3
城崎中	23	25	18	66	3
竹野中	24	29	18	71	3
日高東中	105	130	108	343	10
日高西中	28	37	37	102	3
但東中	25	31	27	83	3
合計	662	704	675	2,041	60



4. 小中学校適正規模・適正配置の 考え方と再編の枠組(案) (現時点での検討案)

4. 小中学校適正規模・適正配置の考え方と再編の枠組(案)

豊岡市の学校適正規模・適正配置の考え方(素案)

1 適正規模

(1) 理想とする姿

ア 小学校 12～18学級(1学年あたり 2～3学級)

イ 中学校 9～18学級(1学年あたり 3～6学級)

(各学年でクラス替えができる複数学級を確保)

※文部科学省の『公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引』で示された目安

(2) 最低限確保したい学校規模(下限の目安)

ア 小学校 全校児童120人程度以上(各学年20人程度以上)

イ 中学校 全校生徒 60人程度以上(各学年20人程度以上)

(単学級でも複数のグループが編成できる人数を確保するための必要人数を確保)

4. 小中学校適正規模・適正配置の考え方と再編の枠組(案)

豊岡市の学校適正規模・適正配置の考え方(素案)

2 適正配置

(1) 通学時間

小・中学校とも概ね1時間以内とする。 ※遠距離では、交通手段の確保が前提

(2) 再編の枠組み

地理的要因・社会的背景を考慮した学校配置とするため、

ア 小学校 原則、同一中学校区内とする。

イ 中学校 原則、旧市町域内とする。(ただし、港・城崎は除く)

また、旧市町域内に1校は存続させる。

4. 小中学校適正規模・適正配置の考え方と再編の枠組（案）

豊岡市の学校適正規模・適正配置の考え方（素案）

3 再編の進め方

(1) 複式学級の解消を最優先

対象

ア 既に複式学級がある学校

イ 近い将来、複式学級が生じる学校（10年程度）

(2) 将来を見据えた **検討** を開始

対象

ア 小学校 全校児童120人程度

イ 中学校 全校生徒 60人程度

下回る

⇒ 地域との調整を始める（統合検討委員会の設置等）

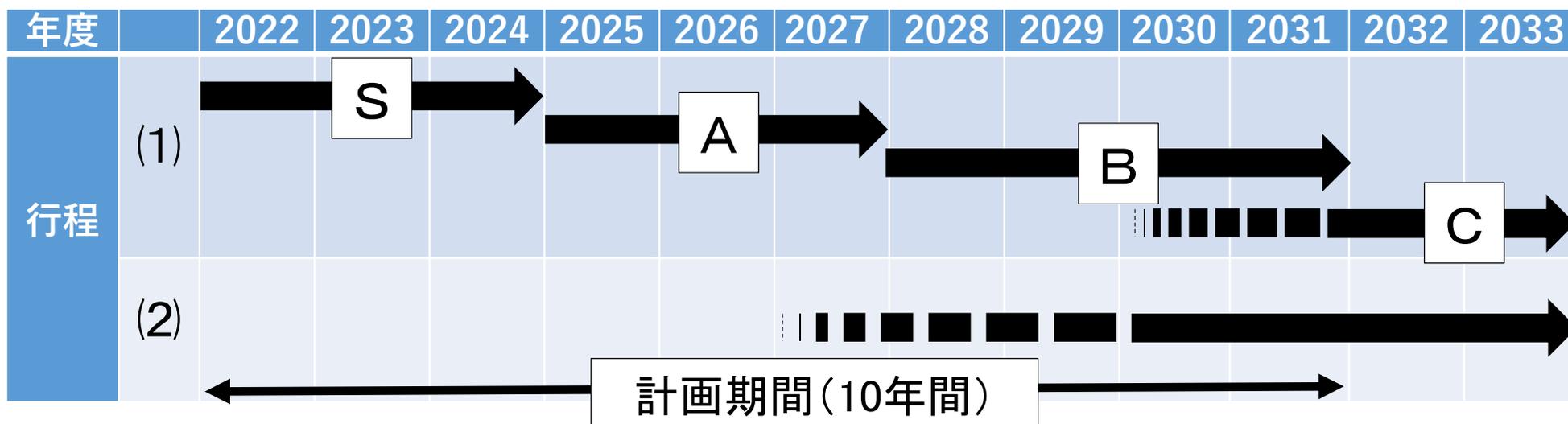
4. 小中学校適正規模・適正配置の考え方と再編の枠組（案）

豊岡市の学校適正規模・適正配置の考え方(素案)

3 再編の進め方

◇年次計画(イメージ)

- (1) 複式学級の解消
- (2) 将来を見据えた検討



S: 最優先
A: やや急ぐ

B: 5～10年後
C: 10年以降(計画期間内に協議を開始)

4. 小中学校適正規模・適正配置の考え方と再編の枠組(案)

豊岡市の学校適正規模・適正配置の考え方(素案)

4 これ以上再編が困難な場合の教育課題の軽減

地理的要因等により、再編を進めることが難しい場合、多様な考えに触れるための対応策として次の項目について検討を進める。

ICTの活用による学校間交流や

オンライン授業の検討



4. 小中学校適正規模・適正配置の考え方と再編の枠組(案)

再編の枠組み案 (現時点での検討案)

4. 小中学校適正規模・適正配置の考え方と再編の枠組(案)

出石地域の場合・・・

検討対象校	枠組(案)	優先度
寺坂小学校	① 寺坂小＋福住小	S
	② 寺坂小＋弘道小	
小野小学校	③ 小野小＋小坂小	A

S:最優先 B:5～10年後

A:やや急ぐ C:10年以降(計画期間内に協議を開始)

4. 小中学校適正規模・適正配置の考え方と再編の枠組(案)

市全域での検討は・・・

検討対象校	優先度	検討対象校	優先度	検討対象校	優先度
中竹野小学校	S	小野小学校	A	港小学校(仮称) (港東小+港西小)	C
竹野南小学校	S	合橋小学校	A	三方小学校	C
八代小学校	S	資母小学校	A	清滝小学校	C
静修小学校	S	中筋小学校	B	小坂小学校	C
寺坂小学校	S	港中学校	B	日高西中学校	C
高橋小学校	S	城崎中学校	B		

S:最優先

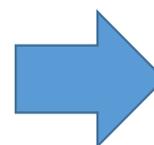
B:5~10年後

A:やや急ぐ

C:10年以降(計画期間内に協議を開始)

①寺坂小学校と福住小学校の場合 **現在の複式学級を解消** **優先度S**

学校名	2020年度		2030年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数
寺坂小	25	4	21	3
福住小	108	6	86	6
合計	133	—	107	—



学年	2030年度	
	児童数	学級数
1年	15	1
2年	17	1
3年	16	1
4年	17	1
5年	19	1
6年	23	1
合計	107	6

枠組み(案)の理由

- 複式学級の解消を図る。
- 寺坂小と福住小で小小連携教育を実施している。
- 福住小も、ある程度の集団を確保する必要がある。
- 同じ旧室埴村区域である。

課題

- 統合しても各学年が単学級であり、10年後をみると20人程度規模の学級人数が確保できない学年もある。

4. 小中学校適正規模・適正配置の考え方と再編の枠組(案)

出石地域

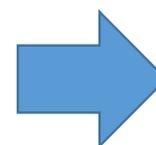
①寺坂小学校と福住小学校の場合



②寺坂小学校と弘道小学校の場合 **現在の複式学級を解消**

優先度S

学校名	2020年度		2030年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数
寺坂小	25	4	21	3
弘道小	227	10	124	6
合計	252	—	145	—



学年	2030年度	
	児童数	学級数
1年	23	1
2年	24	1
3年	24	1
4年	27	1
5年	22	1
6年	25	1
合計	145	6

枠組み(案)の理由

- 複式学級の解消を図る。
- 20人程度の集団が確保できる。

課題

- 統合しても各学年が単学級である(クラス替えが不可)。

4. 小中学校適正規模・適正配置の考え方と再編の枠組(案)

出石地域

②寺坂小学校と弘道小学校の場合



学校間距離

約5.0km

学校間移動時間(バス)

約15分 (20km/h)

最も遠い集落からの距離

寺坂 ⇒ 弘道小 6.2 km

谷山 ⇒ 寺坂小 6.4 km

4. 小中学校適正規模・適正配置の考え方と再編の枠組(案)

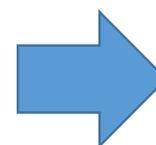
出石地域

③小野小学校と小坂小学校

近い将来の複式学級を解消

優先度A

学校名	2020年度		2030年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数
小坂小	90	6	63	6
小野小	58	6	33	4
合計	148	—	96	—



学年	2030年度	
	児童数	学級数
1年	13	1
2年	14	1
3年	15	1
4年	17	1
5年	19	1
6年	18	1
合計	96	6

枠組み(案)の理由

- 近い将来生じる複式学級の解消を図る。
- 出石地域の北部での隣接校である。

課題

- 統合しても各学年が単学級であり、20人程度規模の学級人数が確保できない学年もある。

4. 小中学校適正規模・適正配置の考え方と再編の枠組(案)

今後のスケジュール

※太文字は地域住民の意見を聞く場

時 期	内 容
2020年9月～10月	保護者、地域との 意見交換会
2021年2月	審議会から答申(予定)
2021年4月～	答申内容の 地域説明会
2021年9月頃	計画(案)の 地域説明会、パブリックコメント
2021年11月末頃	計画策定・公表
2021年12月～	統合に向けた 校區別説明会
2022年4月	計画スタート、 統合検討委員会の設置調整
2023年4月	学校統合(最も早い場合)

4. 小中学校適正規模・適正配置の考え方と再編の枠組(案)

(参考)地域独自の動き①

奈佐小学校 児童数 35人 (2年生児童は1名)

2019年12月に要望書が提出された(奈佐区、奈佐小PTA)

2021年4月に五荘小学校と統合予定

港東小学校・港西小学校 港東小児童数 50人
港西小児童数 42人

2020年2月に要望書が提出された(港地区区長会、港3校1園PTA)

2021年4月に統合し、港小学校(仮称)となる予定(校舎は港東小学校を使用)

※児童数は2020.5.1 時点

4. 小中学校適正規模・適正配置の考え方と再編の枠組(案)

(参考)地域独自の動き②

中竹野小学校 児童数 23人 (2年生児童は0名)

2020年9月に要望書が提出された

(中竹野地区区長協議会長、中竹野小学校PTA会長、竹野認定こども園
中竹野地区保護者代表から)

2022年4月に竹野小学校と統合予定

※児童数は2020.5.1 時点

小中学校のあり方意見交換会まとめ（保護者向け・出石会場）

意見交換会での意見・質問とその回答（主なもの）

《適正規模》

○私は子どもの頃、小学校1学年2～4クラス、全校生で600人、中学校は1学年10クラスで、全校生で1,000人を超える中で過ごした。そう思うと、1学年の中で全員の名前と顔がわかる小学校の規模はちょうどよかったのかなと思う。中学校で10クラスになると、3年間で一度も同じクラスにならない子もいて、そのまま卒業して卒業アルバムには知らない人が載っているという状況だったので、市の適正規模・適正配置の考え方の1学年で小学校2～3学級、中学校で3～6学級というのは、感覚的に納得できると思って聞いていた。

私自身、外から来た人間で、地域が今までどうだったかを知らずにいるが、やはり少ないなと思っている。子どもを保育園に預けていたが、最後の年長になると、他の子が弘道小や福住小に行く中、子どもと小学校の行き先について話した際、寺坂小だと言うと、「えっ、私だけ違うの?」「何で私だけ?」「何で同じところに行けないの?」と子どもは言う。住んでいる所が違うからと説明するが、なかなか理解できない。小学校に入ってから、福住小学校と交流授業があるが、一度、参加できないことがあって、すごくショックを受けて、残念がっていた。「もっといっぱいできたらいいな」「また会いたい」「一緒に遊びたい」と言うので、やはりたくさんの中で学習をしていくの

は大事だなと思う。

単に福住小と弘道小のどちらかというよりも、早く3校一緒にすることも考えた方がいいのではないかと考えている。

《学校再編》

○菅谷小学校が福住小学校に統合した。菅谷校区は学校を残そうという議論であった。しかし、小規模校になって、本当に学校を残すべきかどうか、PTAから話が持ち上がって、地域を動かして福住と統合した。ただ、通うのが大変なので必ずバス通学をということで、現在バスで福住小まで通っている。地域の古い考えから言うと、学校があるから地域が守られているという意見が強いが、今は、コミュニティが核となり、地域の活性化や社会活動が行われていると考えると、必ずしも学校がなければ地域が廃れるとか、学校を残さなければならぬという考え方が当たらない時代に来ているのではないかと。自分たちの子どもの頃のことを考えても、子どもたちは、ある程度大きい人数の中で教育をさせてあげる方が、競争心や集団活動などを学べる。今日示された適正規模・適正配置の考え方は、一つのそういう土壌を踏まえても、私は考えられると思う。

小野小学校でも、今考えていかなければ、もう何年かしたらその問題が出てくる。早くから意見集約・調整をする必要があると、今日聞かせていただいて思った。

⇒ 今のように、歴史的背景や地域の方の思いも教えていただければありがたい。

○10年後にはまたどこかと統合する話が出てくるのなら、もっと大きな統合をここで考えるべきではないか。

⇒ 大きな枠になると地域の方々の同意を得るのが大変難しくなる。その間に小規模化が進み複式学級が増えるということは避けたいとの思いで、審議会の中では、まずは複式学級になる学校を最優先に考えようとしている。今のご意見のように、大きな枠で考えることが可能であれば、理想とする姿に近づくので、ありがたい意見である。

○少人数の授業のデメリットだけではないと思う。統合するのであれば、0か1かではなく、1・2年生は分校、高学年は集約して大きな小学校に登校するという方法はどうか。統合しても、コミュニティの中に低学年が通う校舎があるという形は確保できないか。中間の案はないか。

⇒ 1・2年生は分校でという意見は、審議会にもつなげていただく。しかし、低学年は高学年を見て育つという部分もあるし、高学年は低学年の世話をするという面もある。そういうことも考えながら検討していきたい。また、0か1かではなく、小規模の課題を解決するため、多様な教育環境を得るための取組として、10年ほど前から小さな規模同士の小学校が年に数回一緒に授業をしている。その取組の中で、他の地域であるが、「子どもがすごく楽しいと言って帰ってきた。友達ができた。次は、いつあるのかな？」と言っていた。親としては、一時のことではなく、そういう教育環境がずっと続けばと思った。」

との意見であった。バスでの移動、学校間での授業準備で先生の負担が大きいこと、授業進度の調整が必要で難しいことなど、かなりの制約がある。できる限りのことをやっているが、それも限界があることから、このような提案をさせていただいている。

○ビデオにあったような少人数の授業風景はよく見るが、私にとってはデメリットばかりという印象はなく、少ないので先生も一緒に入ってもらっていろんな意見を引き出しながらやっていただいている。少ないからダメだという感じがしたので、そうではないという意見もあることを分かっていたきたい。

適正規模・適正配置という考え方はもっともで、小学校はすごく少なく、いろいろな意見に触れるという機会は少ないかなということは実際にある。中学校に進学したときに、小学校と中学校とのギャップが子どもにとって悩みになるとも思うが、再編ありきではなく、小規模校なりの良さを尊重していただけたらありがたい。

再編するにあたって、小さい学校は取り込まれてしまうという感じになるので、子どもにとっても負担が大きいと思う。あまり早急に進めて欲しくない。丁寧にしていただけたらと思う。

⇒ 保護者の声としてしっかりと受け止めたい。今日の示し方は、確かに小規模校は悪いと映ったかもしれないが、決してそういう意図ではなくて、それぞれの学校で小さ

いながら一生懸命に、それぞれの工夫でやっていただいているし、先生と子どもたちの距離感が近くて、きめ細かい教育をやっていただいていることはよくわかっている。そのことを踏まえながら、今後どうしたらいいのか、そういう視点で今日は提案させていただいている。

心配なことがたくさんあることもお聞きしたので、そのことも解決できるよう、セットにしなが、PTAや地区の方から、いろいろな意見を伺いながら検討していきたい。こういう機会をたくさん持ちたいと思う。

《その他》

○30年前に廃校になった地区があるが、地域を歩いていても子どもとほとんど出会わないと話を聞く。地域の今後30年後の人の流れも踏まえて考えていただけたらと思う。統合自体が悪いとは思わないが、統合するならコミュニティも統合するくらいの覚悟で、みんなで考えないといけないと思う。

⇒ コミュニティの統合については、学校よりももっと難しいものとする。ご意見として承る。

○コロナ禍の問題があり、今後、これまで考えていた学校の規模や人数について、新聞でも国が学級人数を少し減らして適正化を図るという話もある。また、今年の12月に小学校1年から中学校までタブレット等が全員に配布されるという中で、CMなどでもICTを活用して各学校とコミュニケーションをとるなど、これからの時代はかなり変わってくると思うが、そう

いう部分も考えられているか。

また、複式学級の様子を見させていただいたことがあるが、ビデオで見るよりも、意外と子どもたちも集中していて、思った以上に気にならないかなと感じた。地域性やいろんな考え方があると思うが、学校がなくなれば若い世代の人たちが確実にいなくなる。そうなれば、地域やこれまでの歩みがなくなってしまうので、そういった部分もしっかりと考えていただきたいと思う。

⇒ 国の動きは、「学校規模」ではなく「学級規模」を小さくすること、これはコロナ対策だけではなく、子どもたちの学びにとって、40人学級、35人学級は多いだろうということでの検討であり、それはその通りだと思う。

ICTの活用は、これからではあるが、Webを通して学校間で交流するという事は、これからどんどん進めていくことになる。ただ、大学ではコロナ禍でWebを利用して授業を行ってきたが、辛抱できなくなり対面授業を始めだした。大学の講義型の授業ですら、対面授業の方がいいと判断されている。ICTの効果と今までやってきた対面式の協働的な学びの両方のいいところ取りというのが、教育のこれから進めるべき姿であると考えているが、対話的という点に関しては、離れていて空気感がわからない、怒っているか笑っているか分からないような中で学びをするのはかなり困難であると思う。

複式学級について、実際に見られた時には子どもたちは落ち着いていた様子であったかもしれないが、教育的に

見ると、低学年や、とくに、発達に特性のある子などは工事現場の騒音の中で授業をしているような感じであり、かなり課題がある。

教育委員会でも何度も視察し、複式学級のある学校の校長先生に集まってもらって声を聞いてもいる。

音楽などの専科教員を学級担任に充てても、複式を解消させているという例が、複式学級の姿を物語っており、学校現場の現実だと思う。

○今までは、但東町から出石、弘道小に家を建てたりアパートを借りたりするなどして子どもが寄ってくるというイメージがあったが、近年、逆に、高校進学を考え、日高に家を建てるとか、アパート住まいの方が八鹿に住むことにするなど、出石から転居される方があった。

豊岡は高校の校区割り当てがあると思うが、この再編を考えられるときに、中学校を卒業した後の高校の受験エリアのことも考えておられるのか。

また、少人数の学校でも、小学校・中学校でも逆にそんなところに行きたいという方もおられるので、ぜひ、学校が魅力あるものになるよう充実させて欲しい。

⇒ 高校進学のことには考慮していない。高校の入試を含め、高校の枠組みも変わろうとしている。高校も人数が減っていくので、今ある学校が存続できるかということも含めて県が検討しているので、どんどん変わっていくと思われる。

私たちが、今、すべきことは、最後に言われたように、高校をどこに行くかということよりも、今通っている小中学校をもっと魅力的なものにしていく、再編して数が増えたということではなく、だからこそこういう教育ができるということを考えていかないといけない。それが一番肝になる。夢や希望も含めて検討していく必要がある。出石で、もし、どこかの学校が統合したら、そこならではの教育はどのようなことができるか、どんなカリキュラムにしたらよいか、そこが一番大事だと思う。大切な意見としてお受けさせていただく。

アンケートでの意見（主なもの）

- 複式学級や同級生が極端に少ない状況は、どちらも避けたい状況だと思う。子どもたちにとってある程度の集団での生活は必要だと思う。
地域性という言葉をよく聞くが、小学校に入る前の子どもたちはそれに関係なく保育園で過ごしている。地域を気にするのは周りの大人だと思う。
- 適正規模・適正配置の考え方は、感覚的によくわかる。再編に関しては、もっと早く進めて欲しい。後々のことを考えると、寺坂+弘道の方がいいかと思うが、最初から3校若しくは出石中学校区で1つにして、最短でできたらより良い気がする。
- ただでさえ集中力のない子なので、複式学級では我が子は辛いだらうと感じた。
- 寺坂小で再編を進めるのであれば、小小連携をしている福住小との再編が望ましいと思うが、子どもの負担（吸収されてしまう、転校生扱い）を考えると、連携を対面・オンライン等で進めながら、ゆっくりと進めて行ってほしい。
- 豊岡市が掲げている「ふるさと教育」の取組についてのあり方、進め方も踏まえて、統合問題を考えていただきたい。

- 保護者と地域の意識の差は大きく、統合について反対・賛成はもちろんのこと、市主導で動いていただき、さらに周知していただきたい。
- 極端に少ない状況を考えると、親子共々寂しい思いがする。せめて同級生10人以上は必要だと思う。ただし、統合がいかどうかは別問題と感じる。
- 適正規模・配置は良いと思うが、仮に統合後の校区単位におけるコミュニティのあり方はどうなるのか？
- 幼保再編と小中再編は別の枠組みとして考えているのか？
- 誠に残念なのが統合ありきということである。
審議会では机上の議論をしないように、地域性をしっかりと受け入れるよう要望する。